

PD看護ステップアップシート

- 【目的】 ①施設でPD看護に従事している看護師が、自身のPD看護のステップを評価できる  
 ②自身のステップにあった教育プログラムを選択できる  
 ③指導者がスタッフの習熟レベルを確認する際の参考資料とする

- \*サポートの必要な症例: 高齢、ADL低下、麻痺、認知・視覚・聴覚障害、家族介護力が低いなど  
 \*困難な症例: 上記の状況が高度な場合や複数存在する場合

PDNsステータス	PD ビギナーNs	PDベーシックNs	PDアドバンスNs	PDエキスパートNs	
PDNsステータスのイメージ例	PD未経験～1年未満 または経験症例数が少ない CKD、PDについて知識は浅いが、基本的な看護は助言を受けながら実施できる 「PDをはじめのあなたへ」の内容を理解している	PD経験1年以上3年未満 または過去にある程度経験があるが数年経過している PD看護の基礎知識はもっており、基本的な看護は一人で実施できる 「PDアカデミーナースカレッジ基礎コース」の内容を理解している	PD経験3年以上で日常の業務でPDに携わっている 知識経験が増え、サポートが必要な症例に対しても個別性のある看護を工夫して行うことができる 「PDアカデミーナースカレッジアドバンスコース」の内容を理解している	PD経験3年以上で多くの症例を経験している 困難な症例にも対応でき、様々な視点から総合的な判断やアイデアが創出できる 「PDアカデミーナースカレッジエキスパートコース」の内容を理解している	
周術期・導入期管理	観察ケア	□カテーテル留置術・SMAP・出口部作成術の術式を理解している 術後の観察・ケアが助言を受けながら一部実施できる □早期合併症(液漏れ、PD感染、横隔膜交通症など) □創部、出口部管理 □コンディショニング	術後の観察・ケアが一人で実施できる □早期合併症(液漏れ、PD感染、横隔膜交通症など) □創部、出口部管理 □コンディショニング	□患者の状況にあわせ、観察・ケアができる □肥満、麻痺、認知症、知的障害等の患者に対して出口部位置決定や管理方法が検討できる	□困難な症例への支援方法の工夫などアイデアを創出している
	知識	□周術期の流れと導入期教育の基本を理解し、助言を受けながら説明ができる □PDとは □システムの選択 □カテーテル留置術 □測定と記録 □PD感染症 □検査値と薬 □日常生活 □緊急時対応 □退院準備	患者・家族の状況に合わせて、一人で説明、指導ができる □PDとは □システムの選択 □カテーテル留置術 □測定と記録 □PD感染症 □検査値と薬 □日常生活 □緊急時対応 □退院準備	□サポートの必要な症例へも、患者・家族の状況に合わせて指導ができる	□困難な症例への支援方法の工夫などアイデアを創出している
	出口部管理	□周術期～安定期の出口部管理方法を、助言を受けながら説明ができる □シャワー・入浴の開始の基準や方法がわかり、助言を受けながら説明できる	□周術期～安定期の出口部管理方法を、患者の状況に合わせて指導ができる □在宅状況に合わせて、シャワー、浴室の環境について指導ができる	□サポートの必要な症例へも、患者・家族の状況にあわせて指導ができる □必要時在宅サポート先と連携し、在宅環境の調整ができる	
維持期管理	CAPD/APD操作	□CAPD(手動/デバイス)基本操作を理解し、患者に合わせて指導ができる □清潔のポイント □バッグ交換 □測定と記録	□APDの基本操作を理解し、患者に合わせて指導ができる □一般的なトラブル回避方法や対処法を知っている(パンフレット記載内容)	□患者・家族の特性をふまえたシステムの提案および工夫した指導ができる □トラブルが繰り返さない環境調整ができる □APDアラームの発生しにくい機器の設置や設定の提案ができる □必要時在宅サポート先と連携し、調整ができる	
	出口部管理	□安定期の正常・異常がわかり、助言を受けながら観察、指導ができる	□周術期～安定期の出口部トンネル部の治療過程を理解し、異常時は報告できる □段階に応じた観察ができ、トラブル時は助言を受けながら介入、指導ができる □シャワー、入浴の開始におけるポイントを理解し、患者に合わせて再指導ができる	□患者の状況にあわせた管理方法を検討し、指導ができる □医学面、環境、生活状況の変化等に気づき、トラブルを回避できるよう介入できる	□困難な症例への管理方法を工夫などアイデアを創出している
	出口部・トンネル感染	□症状、原因、予防について理解している □助言を受けながら観察ができる □感染時の出口部処置、管理方法がわかる	□診断、検査、治療について理解している □指示のもと、検体採取、処置、管理ができる □培養結果、身体状況、自己管理状況等から助言を受けながら原因を考え、再指導ができる	□出口部トラブルや感染時には適切に対応ができる □培養結果、身体状況、自己管理状況等から原因を検討し、管理方法の工夫や再指導ができる	□自院の出口部トンネル感染率をモニタリングし、院内体制の課題解決に医師と協働し定期的な評価、見直しをしている
	腹膜炎	□症状、原因、予防について理解している □症状や排便の観察ができ、異常時には報告ができる	□診断、検査、治療について理解している □発症(疑い)時には、指示のもと観察や検査等手順に沿って初期対応ができる □発症時は、検査結果、病状の変化を把握し、助言を受けながら全身状態の管理ができる □培養結果、身体状況、自己管理状況等から原因を考え、再指導ができる	□腹膜炎(疑い)時には適切に初期対応ができる □発症時は、検査結果、病状の変化を把握し、全身状態の管理ができる □培養結果、身体状況、自己管理状況等から原因を検討し、管理方法の工夫や再指導ができる	□自院の腹膜炎発症率をモニタリングし、院内体制の課題解決に医師と協働し定期的な評価、見直しをしている
	体液管理/溶質除去不良	□PDの水分・溶質除去のしくみを理解している □透析液の基礎(種類・特徴)を理解している 症状、原因を理解している □体液管理不良 □溶質除去不良	□検査、治療、予防について理解している □処方、交換スケジュールを理解している □検査結果や臨床症状から、異常に気づき報告ができる □検査結果、透析状況、臨床症状、生活状況等から、助言を受けながら原因を考え、再指導ができる	□検査結果、透析状況、臨床症状、生活状況など総合的にアセスメントし、原因が検討でき、再指導ができる □処方、交換スケジュールの検討、提案ができる □患者の状況にあわせた対応策を検討し、医師や栄養士など専門職と協働して介入できる	□困難な症例においても処方・交換スケジュールの検討、提案ができる □自己管理が困難な症例への指導方法の工夫やアイデアを創出している
	その他の合併症		その他のPD関連合併症を理解している □EPS □その他	□EPSの推察因子や検査結果より危険性を予測し、早期発見のための観察ができ、必要時報告ができる □その他の合併症やトラブルの状況を把握し、対応ができる	□様々なトラブルや合併症を予測し、早めの介入や早期発見、対応ができる
	緊急時対応	緊急時とその対応を理解し、一般的な説明ができる □身体異常 □操作ミス、器材の異常	□緊急時の手順にそって電話/来院時に対応ができる	□様々な症例に対し、適切に対応ができる	□困難な症例に対しても、適切かつ迅速に対応ができる □患者の状況に合わせて、解決策・回避策の提案ができる
	災害対策	「PD患者の災害対策マニュアル」の基本的な災害対策を理解している □連絡先 □在庫管理 □APD/CAPD操作 □出口部ケア □デバイスの使い方	院内の災害対策マニュアルを理解し、断水時、停電時の指導及び対応ができる □連絡先 □在庫管理 □APD/CAPD操作 □出口部ケア □デバイスの使い方	□関連部署と連携をとり、臨機応変な対応ができる	□院外の関連部署と連携体制の調整ができる
	服薬	□保存期から継続した薬物療法の重要性を理解している □CKDIに関連する内服薬の効果、服薬方法、注意点等理解している □服薬状況を確認できる	□薬剤師を含めたチームの助言をうけながら、内服薬の指導ができる	□内服薬の効果、服薬コンプライアンスを判断し、指導ができる □適切な服用が継続できるよう、必要時薬剤師と連携をとり、協働して介入している	□困難な症例に対して、課題解決に向けた対応策を検討し、専門職や訪問看護師等と連携、調整ができる
	食事	PDの栄養学的特徴を理解し、一般的な説明ができる □食塩 □エネルギー □たんぱく質 □カリウム	□栄養士を含めたチームの助言をうけながら、嗜好や食習慣等を考慮した、実践可能な指導ができる	□栄養/食事への課題、原因をアセスメントでき、それに合わせた対応・評価ができる □栄養士との連携をとり、個性のある指導ができる	
日常生活	排泄	□腎不全やPD治療における排泄への影響とそのコントロールの重要性を理解している □排便状況を確認できる □尿測の必要性を説明できる	□内服や生活習慣等の影響を考えながら、排便コントロールの指導ができる □尿測の必要性を指導できる	□内服や生活習慣等の影響を考えながら、個性のある排便コントロールの指導ができる □必要時多職種と連携をとり介入している	
	休息	□休息や睡眠の重要性を理解している □休息や睡眠等、生活状況の確認ができる	□生活スタイルを考慮し休息や睡眠の重要性を説明できる □PD治療によって支障が出ないか、観察や聞き取りができ、必要時医師やチームメンバーに相談ができる	□生活スタイルを守りながら、交換スケジュールやシステムの変更を提案ができる	
	運動	□運動の重要性や注意点を理解している □ADLや活動範囲等、生活状況の確認ができる	□患者の身体面や生活スタイルに合わせた運動方法を考え、助言を受けながら指導ができる	□適切な運動が継続できるよう、PDスケジュールや生活の調整を考慮した指導ができる □必要時理学療法士と連携をとり介入している	
旅行	□旅行が可能な事、事前の準備が必要な事理解している □旅行の必要性や希望の聞き取りができる	□旅行における準備や注意点を理解し、助言を受けながら説明ができる	□患者の状況にあわせた助言や調整ができる		
処置/検査	目的、方法、注意点を理解し、助言を受けながら実施できる □接続チューブ交換 □検体採取(出口部、排液) 目的、方法を理解している □24時間尿排液検査 □PET検査 目的、結果を理解している □血液検査 □心機能検査 □画像検査	目的、方法、注意点を患者へ説明でき、一人で実施できる □接続チューブ交換 □検体採取(出口部、排液) □24時間尿排液検査 □PET検査 検査結果を理解している □培養検査(出口部、排液) □24時間尿排液検査 □PET検査	□培養結果、代表的な起因菌を理解している □検査結果から総合的に判断し、処方、交換スケジュールの提案や患者指導ができる	□困難な患者へ対しても、処方・交換スケジュールの提案や患者指導ができる	
在宅管理体制	RPM(遠隔患者管理)	□RPM、遠隔患者管理システムを知っている	遠隔患者管理システムの基本的な活用ができる □治療経過の把握と評価 □血圧、体重の変化の確認 □治療結果を用いた患者指導 □問い合わせへの基本的な対応と指導	遠隔患者管理システムをプロアクティブな対応に活用している □治療経過の把握と評価 □PD継続のための工夫や生活にあわせた処方の提案 □問い合わせへの対応や早期介入におけるスタッフへの支援	□遠隔患者管理システムを多職種チームや連携先との共有に活用している
	在宅サポート	□アシストが必要な患者への在宅サポート体制の必要性を理解している	□在宅サポート体制にどのようなものがあるか知っている □患者・家族の状況から、どのような在宅サポートが必要か検討できる	□サポートが必要な症例への対応ができる □在宅での管理方法の工夫 □MSW、訪問看護、介護施設との連携調整	□困難な症例への対応ができる □在宅での管理方法の工夫 □MSW、訪問看護、介護施設との連携調整
意思決定支援	□RRTやCKMの概念を知っている □SDMの概念を知っている	□SDMを用いたRRT選択支援が助言を受けながら実施できる □ACP/Lifegoalsの概念を知っている	□患者の思いを尊重した提案や支援を心がけている □サポートが必要な症例へもSDMを用いたRRT選択支援ができる □様々な段階に応じて繰り返しSDMを実践している □患者の状況の変化に応じ、SDM/ACP/Lifegoalsを共に考え対応している □患者の意向や状況を把握し、タイムリーにMSW、移転コーディネーター、在宅サポート先等、適切な専門職と連携や調整ができる	□自院のSDM実施率等をモニタリングし、院内体制の課題解決に医師と協働し定期的な評価、見直しをしている □意思決定が困難な症例においても、患者の思いを第一に考え様々なアイデアを創出している □PDからHD併用やHDへ変更する際、患者の意向や透析効率を考慮した上で、意思決定支援をしている □PDラストでの導入の際、サポート先と連携し、PDシステムや交換スケジュールを検討した上で、意思決定支援をしている	
役割・活動	院内役割	□PD管理方針を理解し、所属部署で助言を受けながらPD看護が行える	□チームメンバーとして、自立して基本的なPD看護が行える □治療/看護の質向上の主な指標がわかり、自施設の現状を知っている(出口部感染率、腹膜炎率、療法選択外来受診率など)	□主な関連部署のスタッフ教育をリードをしている □患者教育システム・バス・マニュアル等の整備をしている □自施設の治療/看護の質を評価し、課題、対策をメンバーとともに検討している □多職種チーム活動の中で看護チームのリーダーとして質の向上を目指した活動をしている	□院内スタッフの教育システムを構築し、定期的な評価、見直しをしている □多職種チーム活動の中で医師とともに中心となり、リーダーとして質の向上を目指した活動をしている □訪問看護ステーションなどの連携先へのスタッフ教育をリードし、教育システムを構築している
	自己及び対外啓発活動	□PDにおける自己学習を進めている □セミナー等に参加している	□共同演者として研究会、学会等に参加している	□研究会、学会発表を行っている □院内および一部エリアで講師をしている	□PDに関する研究発表や対外活動を積極的に行っている □エリア～全国で講師、座長をしている □ポジティブなディスカッションをしている □自施設のみでなく他施設の課題解決へのアドバイスを行っている
参考資料(各製品の添付文書および取扱説明書以外を掲載)	PDをはじめのあなたへ(R30276)、PD感染症予防ガイド(JPRC00220051V1)、PDお食事ガイド(R30277) コンパクト交換トレイ操作手順3折り(JPG59190006)、PET・24時間尿排液検査マニュアル(R60003 (Ver1)04/2024) PD患者さんのための災害対策マニュアル(JPRC00230146V1) 他	ナースカレッジ基礎コーステキスト(R30074) 腎臓病SDM推進協会https://www.ckdsc.jp/document/document.html「かぐや」をはじめましょう(JPRC28230026V1) 他	ISPDガイドライン 質の高い目標指向型のPD処方2020(JPMG232200084) 「かぐや」をはじめましょう(JPRC28230026V1) 他		